



井原市民病院 まいづる連携だより

平成 30 年 12 月 17 日

〒715-0019 岡山県井原市井原町 1186 番

井原市民病院内 地域医療連携室
TEL.0866-62-1133 連携室直通 FAX.0866-63-2840

第 33 回まいづる連携連絡会報告

今回は、「認知症を地域で支えよう」と題して、当院地域医療連携室崎谷看護師長より認知症患者に関する事件症例発表や認知症の現状報告を行ったあと、身の回りで困っている症例や必要な支援体制についてグループワークを行いました。

認知症になっても住み慣れた地域で暮らし続けることができる社会が目指されていますが、どのように地域で見守っていくかが大きな課題となっています。グループワークでも地域全体で認知症患者と家族を支えていけるネットワーク作りに向けて、多くの課題が協議されました。下記にグループの意見をまとめました。

今回のグループワークのまとめ

1グループ

- ・服薬ができていない。
- ・1人暮らしで認知症がある場合に施設への入所のタイミングに迷う。サービスを増やして生活が成り立っても後々難しくなる場合が多く、いつ施設の話をするかよくわからない。
- ・家族が認知症ではないと否定的で、認知症を認めてくれないことが多い。
- ・地域全体で支える支援体制づくり。
- ・精神面だけでなく金銭面でも家族負担が多くなる。(失禁等でおしめ交換が頻回になる等)
- ・日中はサービスでまかなえるが、夜間の対応が難しい。
- ・家族が遠方だと現状が把握しきれしていない。
- ・本人と家族の意向の食い違いがある。
- ・今までできていたことができなくなることのつらさ、介護を受ける側の苦しみも理解する必要がある。

2グループ

- ・サービスを増やして対応したいと思っても、困っている自覚がなかったり経済的に難しかったりする。
- ・家族が遠方だったり、関係性が悪かったり、近所のかかわりがない場合には支援介入に困る。
- ・ケアマネだけでなく、訪問看護やヘルパーの利用等多くの人に関わることで不安解消に繋がるのではないかな。
- ・家族への支援も必要だが、まずは本人の状況を理解してもらえないことが多い。
- ・おかしいなと思うことを相談できる体制や窓口があれば、重度化する前に対応ができると思う。

3グループ

- ・認知症は受診をしても治らない病気。認知症の診断することの意味・目的は何か。診断より早期ケアを考える必要があると思う。診断を受けなくても支援が得られる体制づくりが重要。
- ・生活を支える・ケアをするという原点に戻るのいいのではないか。
- ・治療から介入を始めると拒否が多い。本人や家族が『認知症』と診断がつくことが怖く、受診につながらない。
- ・家族の理解や協力が必要。認知症について家族が認めてくれないと支援の介入ができない。家族の理解・協力が得られるよう働きかける必要がある。
- ・できないところをフォローする支援、的確なアドバイスをしてくれる窓口の創設等体制整備が必要。
- ・本人だけでなく家族への支援が必要。
- ・認知症のイメージが悪い。認知症＝おかしい、介護が大変と思っている人が多い。
- ・行方不明者への具体的な対策法を検討する必要がある。

たくさんのご意見ありがとうございました。



事務局の連絡事項および次回の連絡の案内について

日時：平成31年3月18(月) 18:00~19:00

テーマ：「ACP(アドバンスケアプランニング)を広めよう」

井原市民病院 看護師長 崎谷由美子

理学療法室にて開催予定